

「日本の食料問題について」

天理中学校 3年 少名子 智陽

今の日本は様々な課題に直面していると私は思っています。少子高齢化、貧困、異常気象、プラスチック問題、男女格差問題や食料自給率等、挙げだしたらきりがありません。その中で私は食料自給率について深く思ったことがありますので、そのことについてお話しさせていただきます。

そもそも食料自給率というものは、国内で消費される食料のうち、国内で生産されたものがどれだけ占めるかを示す指標です。つまり、この食料自給率が高ければ高いほど、国内の食料を自分の国で賄うことができているということです。しかし、この食料自給率、戦後は高かったのですが、次第に低下していきました。その主な理由としては、国土が狭く農地が少ないことや米などの国産食料よりも、パンや肉といった輸入食料を好むようになっていったからだと考えられています。また、農業従事者の高齢化や減少により、国内で食料生産量が次第に低下していることも影響しています。2023年の食料自給率はなんとたったの38パーセント。

もちろん、世界には同じような国がありますが、なかには食料自給率が100パーセントを超え、食料に余裕があり、他国に輸出している国もあります。カナダ、オーストラリア、アメリカ、これらの国は食料自給率が世界でトップ3に入っている国です。それに対して日本は、主要先進国の中では最下位に次ぐ位置にあります。

では、日本の食料自給率の低さを賄っている輸入が何かしらのトラブルによって止まってしまうとどうなるのでしょうか。まず、皆さんが毎日食べているような食事を続けることは難しいでしょう。国内生産の食材のみで作られた1日の食事のメニューの例が農林水産省から出ています。例えば、朝食のおかずは粉吹き芋と糠漬けだけ。昼食の主食は焼き芋とふかし芋。夕食のおかずは、焼き魚一切れ。牛乳が飲めるのは6日に1杯、卵は7日に1個、肉が食べられるのは7日に1度だけ。

これまで述べたように、日本の食料自給率は危機に瀕しています。では一体、どうすれば食料自給率を高めることができるのでしょうか。私が思うに、まずは国内の農業や水産業を活性化させる必要があると思っています。しかし、農業や水産業の仕事に就く人口は年々、減少しており、高齢化も進んでいます。なので、若い人たちが農業や水産業に興味を持つような、参入しやすい環境を整えることが重要です。また、消費者側も意識を変える必要があります。国産の食料を選ぶだけでなく、旬の食材や地産地消を心掛けることで、食料の多様性や地域の特色を楽しむことができます。また、食品ロスを減らすことも大切です。

このように食料自給率を高める方法はたくさんあります。しかし、もっと大事なことは、少しでも意識を変え、実際に行動を起こすことです。なので、これからは私も意識を高めて日本の課題がいち早く解決するように願っています。